



イーハトーブ

4月25日号

京都府南丹市で行方不明になっていた男児の遺体を遺棄したとして、父親が逮捕されたニュースが毎日報道されていた。非常に痛ましい事件であり最悪の結末を迎えた。一方、そのニュース等が世間に多く取りざたされている中、その裏ではまるで誰にも気付かせないようにと思われるくらいの速さで、16日に自民党と日本維新の会は「防衛装備移転三原則」と運用指針の見直し案を了解していた。殺傷・破壊能力のある武器輸出を事実上全面的に解禁する内容である。この内容については、2024年当時、連立を組んでいた自民・公明両党が現行ルールを決めた際は、約11カ月間で27回の協議を重ねたが、今回の与党協議は約4カ月の間にたった3回のみである。平和国家のあり方を変質させかねない政策転換にもかかわらず、まるで「結論ありき」のスピード決着である。この早期決着の背景には、自民の連立パートナーが「平和の党」として政権にブレーキ役を自任した公明から、維新に代わったことが更なるアクセルを上げたのではないか。

今、世界が戦争の時代になってきている。だからこそ平和憲法9条を世界に広げるべきである。殺傷能力のある武器輸出の緩和に断固反対する。武器輸出が進めば外国で日本の武器を使って人が殺されていくのである。そして、その多くの命を奪いながらもお金を儲ける一部の資本家がいることも見ていかななくてはならない。私たち自身もどこかで戦争により株価が上がったか、下がったかだけ見えている自分はいないか？このまま進んでいけば更に戦争反対の声をあげられない監視社会になってしまう。だからこそ、戦争反対の声を大きく広げていくべきである。武器ではなく平和こそ輸出すべきである！

(T.O)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行います。